

<学校研究概要>

1 研究主題

情報活用能力の育成

～ 複線型で対話的な単元デザインの実践から ～

2 主題設定の理由

本校は、学力向上ロードマップを基に「問題発見・解決能力」の資質・能力の育成を目指し、分業・共有・PDCA サイクルの確立に向けた研究を組織的に取り組んできた。その結果、児童に自己決定する場を設定することで、児童自身が問題を発見し、解決していくために主体的に取り組む姿がみられた。しかしながら、各学年の調査の結果では「友達の考えを聞く力」「条件に合わせて自分の考えをまとめる力」「自分の考えを相手に説明する力」が弱いことが課題であった。

そこで、今年度は、児童の弱点を教科等横断的に克服すべく、児童に付けたい資質・能力を「情報活用能力」とした。未来を切り拓くための資質・能力の育成をめざし、これまでの成果のある取組を継続しつつ、児童自身が単元を通して付ける力を意識し、明確なゴールイメージをもち、タブレット端末の活用や対話を通して学びを自己決定していける授業、そして単元づくりをしていく。そうすることで「情報活用能力」を高めていくことにつながると考える。

3 研究の方針

(1) 研究の重点

情報活用能力		
重点プラン		
授業研究 (太字は授業の重点)	学びの土台	
進んで問題を発見し、解決したくなる単元づくり Unit building 教師 <ul style="list-style-type: none"> 単元の導入では、やる気スイッチをONにするために、具体的なゴールイメージや何のためにするのかなどの目的を明確にしたり、子供たちの思いや願いを大切にしたりする。また、途中でゴールにどこまで近づいているのかを確認する時間を設定し、何のためにしているのかを意識させる。 「個別最適な学び」×「協働的な学び」をどのように単元の中で位置づけるのかをイメージしたUB シートを学期に一回作成する。 児童 <ul style="list-style-type: none"> 自分達が立てた計画通りに進めることができたかなど、自分の学び方について振り返る。 (視点 ①学び方 ②ICT活用) 活用問題を行う。 	対話力を育てる授業づくり 考えを自己決定する場の設定 <ul style="list-style-type: none"> 自分が問題を解決するために、タブレット端末等を効果的に活用し、個人、ペア、グループなど、自分に合った学び方はどれなのかを自己決定させ、子供が自分の考えをもてる時間を設定する。 効果的なタブレットの活用方法を考え取り組んでいく。 協働的な場での考えが深まる教師のアシスト <ul style="list-style-type: none"> 見取りを生かし、タブレット端末を活用しながらねらいに迫る大切な発言では、必ず立ち止まり、比較したり、自分の立場を決めさせたりするなど対話する必要感や考える必要感をもって学べるようにしていく。 	基礎基本を支える帯タイム 条件作文&オクリンク <ul style="list-style-type: none"> 毎週金曜日、朝自習で条件作文に取り組み、チャレンジタイムに推敲する。 オクリンクのドリルパークで各クラス、一斉に取り組む。 月一回、学力調査問題レベルの苦手問題に取り組む。 国語・算数プリント <ul style="list-style-type: none"> 朝自習で取り組み、チャレンジタイムに解説を聞き、丸付けする。 並行学級と相談して問題を確認し、同じように取り組む。 チャレンジタイムで正答率が低い問題に取り組む。

(2) 研究構想図

〈学校教育目標〉
未来を切り拓くための資質・能力の育成

日本国憲法 教育基本法
学校教育法 学習指導要領
第3期 石川の教育振興基本計画
学びの12か条プラス
中能登町学校教育の指針

〈めざす児童像〉
○全力 自ら学びよく考える子
○協力 心豊かで思いやりのある子
○持続力 粘り強くたくましい子
○自浄力 自ら考え正しい価値に向かう子

児童の実態
地域の願い
保護者の願い
教師の願い

研究主題
情報活用能力の育成
～複線型で対話的な单元デザインの実践から～

活用力の向上
指針 1,2,3

主体的な情報活用

思考力・表現力の向上
指針 4,5

授業研究の焦点

事実や方法を
既習と結び付けて
説明している。

目指す児童の姿

条件に合った情報
を選別、分類、精選
して考えている。

**多くの情報の中から、必要
なものをつかって解決する力**

GIGA スクール構想

深い学びのためのツール

対話力

問題解決のための効果的な ICT 活用 指針 7

記述力

自分たちの力で課題を発見し、
既習を活かしながら解決する力

目的や状況・相手に応じて「聞く」
「話す」態度・姿勢の醸成 指針 4

目的や条件に応じて「書く」必要な情報
を「読む」態度・姿勢の醸成 指針 5

読書活動の推進 指針 8,9

家庭との連携

生徒指導の3つの視点

道徳学習の充実

家庭学習力の向上 指針 8,9,12

心育て・教室育て

豊かな心

学びの土台